

# 王朝の生け花再現 ◆首里城「琉球の華みぐい」

**首**里城公園「琉球の華みぐい」(沖縄美ら島財団主催)が2017年1月13日から2月26日まで、同公園で開かれる。歓会門から瑞泉門への園路周辺などを約3万株の草花で装飾するほかイベントの一環として、華道家の假屋崎省吾さんが文献を基に、琉球王朝時代の生け花を再現する展示を作り上げる。開幕を前に来県した假屋崎さんに話を聞いた。(新垣梨沙)

## 華道家・假屋崎省吾さんに聞く

### 文献「尚姓家譜」基に

假屋崎さんによる生け花の展示は1月13日から29日までで、琉球王朝時代に国王が首里城内で日常の政務や賓客の接待に使った木造建築物「書院・鎖之間」を会場にする。

展示の基にする文献は「尚姓家譜」の原本。尚豊王の弟・尚盛が1627年、島津家久から挿し花(生け花)の手ほどきを受けて花伝書を託されたことや、首

里城で花を生けていたことが記されている。

文献は尚久王の子孫で、金武御殿門中会の野村朝生事務局長が保管していた。首里城での生け花の展示を企画した假屋崎さんが、尚泰王の四男家の当主で、桃原農園の尚厚社長の協力を得て見つかった。

假屋崎さんは「史実に基づいて展示を作ることが、世界文化遺産でやらせていただく意義だと思う。栄華を極めた時代の風

情を再現し、地元の人たちにも沖縄の文化を誇りに思うきっかけにしてほしい」と意欲を語る。

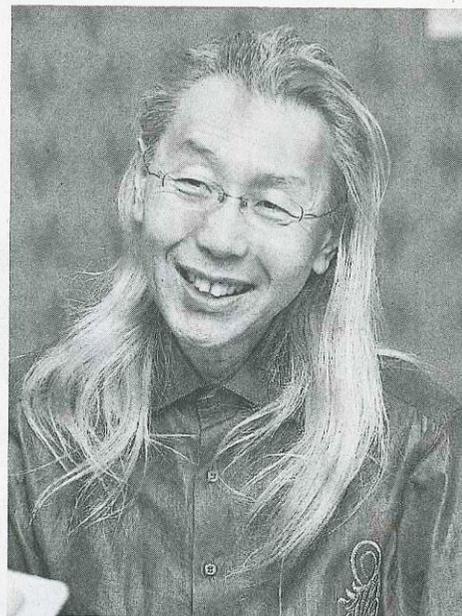
### 暮らしに1輪

これまでも、目黒雅叙園百段階段や松山城、名古屋城本丸御殿など歴史的建造物での展示会を精力的に開いてきた。日本の伝統工芸品にも注目し、花と融合させた展示にも取り組んでいる。

「日本の伝統工芸はどれも素晴らしいが、後継者が不足している現状がある。絶やしてはいけないとの思いや、少しでも素晴らしいさを知ってほしいとの気持ちで、生け花とのコラボを始めた」と話す。

会期中の13日から15日にかけて、首里杜館で来場者の前で花を生けるデモンストレーションを行い、日用品を使った気軽な生け花も提案する。

「琉球ガラスや抱瓶などのやちむんに1輪ほんと生けるだけで、心に潤いを感じる。緑が豊



「花は心のビタミン」と話す假屋崎省吾さん＝琉球新報社

かな沖縄であれば、クロトンの葉と1輪の花を器に浮かべるのも粋だと思う」。園芸少年だった自分の経験を基に、小中高校生に花を生ける楽しさを伝える「花育」をしたいとの企画も温めているという。

子どもには、無限の可能性があると語る。子どもが興味を持つ分野に出会うきっかけを大人がつくることが大切だと説く。「首里城に足を運んでもらえたら、子どもたちにも新しい発見がある。もしかしたら美しい首

里城に触れて建築家やデザイナーに、休憩所でちんすこうを食べたら、お料理屋さんになりたいと思うかもしれない」と目を輝かせ、親子での来場を呼び掛けた。



会期中、首里城公園では、約3万本の草花展示や、ボタンやツバキの花々が表現されている染織、漆器などの美術工芸品も紹介する。問い合わせは、首里城公園管理センター☎098(886)2020。



島津家久公から、花伝書が尚盛へと託された記述がある「尚姓家譜」原本の一部(金武御殿門中会提供)